

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総合研究報告書

高次脳機能障害者の社会的行動障害による社会参加困難への対応に関する研究

研究分担者：辻野 精一 大阪急性期・総合医療センターリハビリテーション科主任部長

研究要旨

重度社会的行動障害を有する高次脳機能障害患者につき調査し実情を把握するとともに研究班共同研究者間で一部情報を共有した。また、統一した匿名化調査票を作成し研究代表者に集約しデータを解析した。それらに基づき、重度社会的行動障害を有する高次脳機能障害患者への対応について班会議で検討し指針をまとめた。さらに「癒しロボット」パロの入院高次脳機能障害患者の社会的行動障害への効果を検証した。

A．研究目的

支援困難な社会的行動障害を呈する高次脳機能障害患者について実情を調査しその基準と対応方法につき検討すること。

B．研究方法

当センターにおける患者事例を收拾し統一した調査票を作成し匿名化ののち他の施設における事例と合わせ統計処理する。その結果をもって重度社会的行動障害を有する高次脳機能障害患者への対応方法につき議論・検討する。研究は当センター倫理委員会の承認を得ており、後方視的であるため当センターホームページにてその目的・要旨を広報している。

C．研究結果

当センターを過去に受診した高次脳機能障害患者のうち重度社会的行動障害を有した症例を抽出し匿名化に留意しつつ病歴および支援状況をまとめ、NPI および高次脳機能障害支援ニーズ判定票を聴取できた11症例分を含む30症例分のデータを収集し研究代表者に送付し、他の施設の分と合わせて研究代表者により分析された。

また、それに基づき重度社会的行動障害を有する高次脳機能障害患者への対応方法につき班会議で議論・検討し指針をまとめた。

D．考察

各施設一定数の重度社会的行動障害を有する高次脳機能障害患者を診療しており症例それぞれに支援困難をきたしていることが明確となり、各施設の症例の統一・匿名化した調査票を集約した結果、これまでにない症例数の分析が可能となり班会議において議論・検討し作成した対応指針は今後他施設においても役立つものとする。

E．結論

重度社会的行動障害を有する高次脳機能障害患者の支援については困難をきたすことが多く、その実情を把握し対応・支援の方法について指針を示すことができた。

当研究より副次的に派生した「癒しロボット」パロの入院高次脳機能障害患者の社会的行動障害への効果を検証については、対象症例一覧（別添1）、学会報告（別添2）、看護研究報告（別添3）を添付する。

F . 健康危険情報
なし

G . 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

水口裕香子、西埜和希、塩屋博史、柴田早

紀、辻野精一：セラピーロボット・パロと
作業課題の併用により、BPSD が軽減した
一症例。2018 年リハケア合同研究大会 10
月 3-4 日、2018、米子

H . 知的財産権の出願・取得状況
なし